

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」 研究開発領域

領域総括：大守隆（元 内閣府 政策参与 / 元 大阪大学 教授）

領域アドバイザー：石田 秀輝（合同会社地球村研究室 代表社員 / 東北大学 名誉教授）、岡部 明子（東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授）、大和田 順子（一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表 / 立教大学大学院21世紀デザイン研究科 兼任講師）、後藤 和子（摂南大学経済学部 教授）、西郷 真理子（株式会社まちづくりカンパニー・シーブネットワーク 代表取締役）、相馬 直子（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授）、服部 篤子（一般社団法人DSIA 常任理事）、藤江 幸一（横浜国立大学先端科学高等研究院 教授）、南 学（東洋大学経済学研究科公民連携専攻 客員教授）、村上 清明（株式会社三菱総合研究所 研究理事）、柳川 範之（東京大学大学院経済学研究科 教授）


領域の概要

地球環境や少子高齢化、財政の制約など成熟社会の重層的な問題を見据え、**環境と調和しながら多世代・多様な人々のWell-beingが持続的に成長できる**社会をデザインする。

領域が目指すもの

<目標>

- ・ 持続可能な都市・地域のデザイン提示
- ・ 多世代共創を促す仕組み
- ・ 統合的な成果の社会実装に向けたネットワーク構築

 持続可能な社会の実現に向けて
子どもから高齢者まで
今を生きる私たちが、
過去世代から何を学び、
未来世代に向けて、
どのような新しい価値を**共に**つくり、
つないでいくのか

<明らかにしたいこと>

- ・ 多世代共創の意義・有効性とは？
- ・ 多世代共創のインセンティブは？
（特に若い世代）
- ・ 新技術の影響や含意とは？
- ・ 多世代共創が普及・定着するには？
- ・ 多世代共創を評価する指標とは？

<成果の活用イメージ>

- ・ 世代を超えた地域づくりのためのハンドブックや事例集
- ・ SDGsや地方創生などの取り組みへの貢献 など

領域における多世代共創

- ・ 同じ時代に生きている多世代（子供、若者、子育て世代、高齢者）の共創
- ・ 過去に生きていた世代や、これから生まれてくる世代との共創

これまでにわかったこと・課題

多世代共創は、

- (1) 人々を巻き込む力を持つ。
- (2) 高齢者を元気にし、若者にやる気を与える。
- (3) 縦割り社会の弊害を補完する。
- (4) 自分たちの取組みや地域の良さ・価値を発見できる。

思いのほか、
地域で評判が
いい!

子育て支援と
高齢者支援の
悩みに共通点!?

斜めの関係
が重要!?

異なる立場や地域間の交流が新しい見方を提供する。

- (5) 人々に「歴史の中での自分」を意識する機会を与える。

歴史と地域と自然に思いをはせ、子孫に思いをいたす。

持続可能性の議論を
自分事・私たち事にできる!?

プロジェクトを推進しながら、
領域としての成果をとりまとめ、発信していきます。

領域のリサーチ・クエスチョン(RQ)の検討とハンドブック等の作成



領域関係者が集う合宿や検討会を毎年開催。多様な立場や専門的知見から、多世代共創の意義や課題について議論を交わします。プロジェクト実施者からは、実感のこもった意見が次々と挙がります。

Facebookで現場の情報を発信

領域・プロジェクトの活動やイベントを発信。プロジェクトの現場にサイトビジットすると、協力者の方々から忌憚のないご意見をいただくこともしばしば。百聞は一見にしかず!



Facebookもチェック!



国際連携・発信に向けた調査

世代間交流を研究する米国・シンガポールの研究者との交流や、国内外の多世代交流・共創事例の調査を実施。



韓国ソウル市: 高齢者と大学生の多世代居住の取組みを実施。

シンガポールの病院: 地域で人々が支えあうための交流拠点を運営。